

カンボジア官民合同委員会結果概要

日時：2019年1月21日（月）9:00-12:15

場所：労働職業訓練省大会議室

参加者数：25人

- 政府(5) 柬 DGTVET Tep Navy 副局長を含め 1人
日 厚生労働省構海外協力室長
- 訓練校(8) NPIC, PPI, NTTI, ITI
- 企業(4) JBAC 近藤製造業部会長を含め 4人
- 援助機関(5) JICA 事務所内藤企画調整員、
JICA-TVET プロジェクト山田、松本、齋藤専門家
JETRO プノンペン事務所 脇坂シニア投資アドバイザー
- 有識者(1) 稲川文夫氏（JTB SESPP 事務局技術顧問）
- 事務局(2) JTB 霞が関事業部 風見幸太郎、安藤清美
（日東通訳：山崎幸恵氏、カンボジア情報サービス）

1. 今年度の成果

- (1) 電気機器組立て職種（配電盤・制御盤組立て作業）
3級トライアル、技術指導研修、評価者認定（ITI）
- (2) 電気機器組立て職種（シーケンス制御作業）
3級評価者講習、トライアル（PPI）
- (3) 機械保全職種（電気系保全作業）
3級評価者講習、トライアル（NTTI）
- (4) 電気職種
技術指導研修、競技トライアル（NPIC）
- (5) 機械加工職種（旋盤作業）
3級試験問題作成研修、技術指導研修（NPIC）
- (6) 日本技術研修 2週間 4名
シーケンス制御に係る技術指導研修、技能五輪大会の視察

2. 次年度実施に向けた提案（厚生労働省）

- 電気職種：競技トライアル
- 電気系保全作業：3級トライアル等
- シーケンス制御作業：3級トライアル等
- 日本技術研修：技能五輪大会（愛知）の視察 1, 2日を含む

3. 官民合同委員会での主な意見

- (1) 電気職種の能力向上
ASEAN 大会で勝つため、中程度能力の層を厚く養成したい（世界大会で競う余力はない）。指導員の能力向上も期待。

⇒中程度能力としても、今年度に引き続き世界トップレベルの指導員招聘は重要。国内活動とも時期を合わせて効果を高めてほしい（有識者）。

ASEANで勝った後に、産業レベルとどのような連携をするのか、ビジョンを見せてほしい（企業）。

2020年ASEAN大会で勝つためには、2019年度の活動がカギ。訓練校などにもタイミングよく機材提供を。トップを育成すれば、その指導と影響で中間層も厚くなり、企業ニーズに応えられる（厚労省）。

（2019年4月にシンガポールでASEAN運営委、10-11月に国内競技大会）

（2）政府の重点分野

政府では、電気、建設、ICT、自動車の4つを優先的に進めており、本事業は、電気分野の評価ツールとして大いに期待（DGTNET）。

⇒2018年は試行的に活動を大幅に増やした。2019年度はニーズや定着可能性を考慮する。カンボジアのコンピテンシー方式の制度でも活用できるはず。なお、本事業はあくまでパイロットで、企業ニーズがある実技に重点をおくことがポイント。評価者育成においても人数でなく質の確保に徹している。政府には、水平展開のためによく理解してもらうとともに、予算（他の援助機関も含め）確保を念頭においてほしい（厚労省）。

（3）活動実施時期

訓練校の実態から、11月の活動集中実施は厳しかった。できれば8-10月をお願いしたい（訓練校）。

⇒今年度は、総選挙の影響を排するため活動が10-12月に集中したが、次年度は7-12月に分散させ、訓練校要望もよく聴取しながら5月に政府と調整する。

（4）企業ニーズについて

機械保全、シーケンス制御など企業ニーズが高く実施職種の提案に賛成。また、工場火災での損害が多い現状を考えると、漏電ブレーカや工事時の溶接対策（消防設備、火災報知器）などを義務付けるべき。ビル設備管理などどうか（企業）。

⇒当面の課題は、工業省などによる産業規制の問題と思うが、技能レベルも必要ということなら、電工技能のレベルアップは有効。